

明治学院大学 社会学・社会福祉学会



学内学会会報 第29号

～今春ご退任されたお二人の先生よりご寄稿いただきました～
私の修業時代



松原 康雄 先生

『和して同ぜず』、このタイトルは、いまから20年ほど前になくなられた本学社会学部社会福祉学科教授であったS先生の追悼集に冠されたタイトルです。このタイトルには集団に親和性を持ち、与えながら、しかし流されることもなかった

S先生への想いが込められています。私にとってS先生は学生・院生時代の先輩であり、本学教員としても先輩でした。彼が存命であれば、私の教員生活もずいぶん異なったものとなっていたでしょう。学生時代から一緒に参加させていただいた研究会では、S先生の勉学の深度に感心させられ、同じ研究領域を目指していなかったことに密かに安堵したものでした。もともと理系の分野を目指されていた時期もあったことからS先生は機械にも強く、私はS先生と同一機種のプロ・パソコンを買い、困るとご自宅にまで電話をしてトラブル解消を指導していただいたものでした。人間的にもその優しさや、幅の広さに、自分自身を省みて反省することが多かったことを覚えています。

このS先生たちと立ち上げた研究会がソーシャル・ポリシー研究会でした。仲間内ではSP研と略された研究会は、日常的な研究会、長期休暇中の合宿を通じて切磋琢磨した懐かしい「場」です。研究会メンバーは、社会保障・社会福祉分野という共通の研究領域があったものの、具体的研究テーマは多岐にわたっていました。定例の研究会では、共通文献を読んで交代にレポートをしていましたが、研究合宿では各自の研究

松原 康雄 (前学長・元社会福祉学科教員)

テーマにそってレポートし、それに対してメンバーが質問やコメントをするという、本社会学・社会福祉学会と同様の方式をとっていました。仲間内ということもあり、逆にメンバーからの指摘はかなり厳しいものであり、自分の報告が終わるまでかなり緊張したものでした。この頃から、著者がなにをいいたいのか、そのコアを確実に読み取るという訓練をしていました。論文であれ、一冊の本であれ、400字に要約をすること、コメントも400字で行うという訓練です。この訓練は、自分の報告を簡潔にまとめることや、論文などを指定された字数「びたり」でまとめるという訓練にもつながっていきました。冗長な報告や、結論が曖昧なコメントには、仲間から厳しい批判が付けられたものでした。

合宿は、その行き帰りの観光や、夜の飲み会など「遊び」の面でも楽しみがあり、あまり飲まないメンバーはまんじゅうをつまみながら、アルコール派は好きなものを飲みながら、勉強の話だけではなく、様々な話をして夜が更けるのが常でした。この研究会を指導してくださった大学時代の恩師のひとは、それぞれの研究テーマを尊重し、研究テーマを押しつけることはありませんでした。研究分野は異なっても、分析方法や考えかたの道筋をつけていくという点でSP研は大きな役割を果たしてくれています。このSP研を当初指導してくださった先生も、若くしてなくなられたので、研究会後半時期はS先生がその中心の一人となり運営が継続されていきました。S先生はご自身も多くの教え子を持ち、その人柄に惹かれる卒業生が多く、現場のみならず、企業に進路を選択した人も、いまだに墓参をする方がいらっしゃると思います。研究者もずいぶん育っています。

私にとっては、研究面以外でも「頼りになる兄貴」であったS先生です。人間関係で悩んだときに、的確なアドバイスをいただけたことは数え切れないほどですし、私が「入り口」を提供したジャズ鑑賞にのめり込み、あっというまに初心の私を抜き去っていったことも思い出の一つです。仕事のみならず、プライベートな側面でも親しいおつきあいをすることができたS先生との出会いを与えてくれた明治学院にも感謝しています。冒頭に紹介した追悼文集で、私はS先生を私のアンカーであったという表現で、その死を悼んでいます。修業時代が単に大学・大学院時代だけではないなかで、うろろうする自分を「和して同」じないようにしていくことは未だに難しいようです。

SP研自体は現在、研究報告会や、読書会などは行っていませんが、年に数回は集まり近況報告や懇親が続

いていますし、学会などでも行動を共にすることもあります。共同執筆による業績が無い中で、SP研を知らない人が多く、なんらかのポジションで母校である単科大学にかかわった経験のある者の集まりと解されることがあるかもしれません。それだけの意味では関係が長続きする訳ではなく、ともに「修業時代」を過ごした経験があるからだと思います。

この思い出を整理すると、主体的に挑戦したいことを選択する過程で、それを支えてくれる存在が重要であること、同様に挑戦していく過程でも支える仲間と先輩がいることも重要であるということでしょう。この会報を読まれている方が、研究教育領域に進まれるわけではないでしょうが、自分の進路選択や後輩への支援で参考にしていただければ幸いです。

学内学会との思い出



岡本 多喜子 先生

私は2020年3月末日で、明治学院大学を定年退職いたしました。明治学院大学での勤務年数は21年となります。大学を卒業してから、3つの職場を経験してきましたが、明治学院大学が一番長く勤めた職場となりました。その意味で

は、社会学部の学内学会にも21年間関わったこととなります。

学内学会の思い出としては、2年間学内学会主任をし、会員の皆様に関わったことが一番大きなものとなります。しかし印象に強く残っていることは、毎年秋に開催する「研究発表会」です。「研究発表会」は学内学会としても大きな事業であり、社会学部と社会福祉学科の学生や大学院生が、ゼミでの活動内容や個人の研究内容を報告する場です。毎年とは言えませんが、何回が参加させていただき、とてもよい場だとの印象を持っております。

学生たちにとっては、自分たちの考えや活動を報告

岡本 多喜子 (元社会福祉学科教員)

するという貴重な機会となります。参加者に分かりやすいようにパワーポイントを作成したり、資料を作ったり、工夫をしながらの発表会は、学部教育の一環としても重要なものと思えました。

また大学院生の発表は、院生たちそれぞれが、学部学生とは異なり、自分の行っている研究内容や調査内容の分析などを発表しており、刺激的な内容の報告も多く見られました。さすが、大学院生と思える発表に出会うと、こちらも大きな刺激を受けることになる楽しい機会ともなりました。教員からの発表がないのはとても残念に思っておりました。私も発表をしていないので、このように言う資格はないかもしれないのですが…。

ただ、学内学会主任をしていてとても残念だったことは、参加者の少なさでした。それは「研究発表会」に限らないことでした。社会学部生は入学時に「社会学部学内学会」の会員となっているのですが、その自覚を持っている学生はどの程度いるのでしょうか。学内学会の学生委員や卒業生部会の委員が様々な企画をしても、いつも参加者が少ないのがとても残念に思っておりました。学内学会主任になった時にも、どのよう

にすれば学生たちが、「自分は社会学部学内学会の会員である」という自覚を持ってもらうことができるのかと考えていました。

そこで、担当の授業のなかで折に触れて「社会学部学内学会の会員であるということを理解しているかしら？」ということ問いかけてみました。しかし大半は「ええ、それ何？」という反応でした。社会学部学内学会という名前を初めて聞いたとか（初めてのはずはないのですが）、それは何をするとところなのという残念な反応でした。これでは困ると考えたのですが、なかなか良いアイデアも浮かばず、何もできずに2年間の任期を終えてしまいました。

今、卒業生として学内学会の会報を目にしている方もいらっしゃるでしょう。そして明治学院大学社会学部学内学会からの連絡を、何故かうれしく感じている方もいることでしょう。そして「そう言えば、授業の時に社会学部学内学会について聞いたことがあったような……」と覚えていらっしゃる方もいることでしょう。学生時代は何とも感じなかった組織であったかもしれませんが、卒業すると学生時代とは別の何かを感じるかもしれませんね。そして現役の学生たちために、何か役に立てることがあればしてみたいと思う方もいることでしょう。是非、卒業生部会での活躍をお願いします。

2020年はCOVID-19という名前のコロナウイルスで幕が開きました。当初は中国の話、そして今は世界中で流行しています。皆様の生活もこれまでとは一変していることでしょう。マスクをして手洗い・うがいなどをこれまで以上に入念にし、アルコール消毒をして、なるべく人と会わず、仕事でも常に発熱や味覚・臭覚の異常に敏感になっていることでしょう。

でもいつかは収束します。社会学部で学んだ皆様は、このコロナ騒動は社会にとってどのような意味を持つのか、この騒動によって人々はどのように動いたのか・動かなかったのか、経済格差がどのようにこの騒動に影響を与えているのか、他の国々の対応の違いなどにも関心を持って、冷静に報道を読み解いてください。元社会福祉学科の教員としては、このような時に乳幼児・障害児者・高齢者・生活困窮者などはどのような状況に置かれているのか、それらの支援をしている方々はどのようにしているのかなどについても不

安が募ります。

そしてこの騒動が終結した後の世界は、日本社会はどのようにこの騒動を見つめなおすのでしょうか。その時、社会学部生や卒業生の皆様はどのような見解を持つのでしょうか。突然の出来事に対してパニックになることなく、冷静に対応してこそ、社会学部で学んだ人々だと思えます。

どうか皆様お一人お一人が、健康に留意して免疫力を高めて、これからの時代を生き抜いてください。そして誰もが暮らしやすい社会を創っていきましょう。

2019年度 学内学会活動報告

★会報28号発行

5月22日(火) 発行部数 2,600部

★第29回総会・特別講演会・懇親会

6月15日(土) 総会：白金校舎本館1255教室

懇親会：パレットゾーン2階「さん・サン」

学生14名、教職員15名、卒業生16名、一般3名、事務局員1名の計49名が参加。

2018年度決算報告、2019年度予算案が承認された。また、規約などの改定が提案され、規約の目的に社会貢献を加えること、教授会の承認を得る重要事項を明確にすること、また施行規則に退会の項目と各部会の予算についての項目を追加することが承認された。

総会後は、本学社会学科教員である坂口緑教授による特別講演「誰がパイプラインをつなぐのか～デンマークの生涯学習政策から考える～」が行われた。（講演の内容はSocially 28号に収録）

懇親会では、学生部会、卒業生部会、教員がばらばらにテーブルに座り、いろいろなテーマで談話した。最後に、名誉会員の土田重春氏の指揮による「明治学院大学校歌」を全員で斉唱した。

★研究発表会

12月7日(土) 白金校舎本館1451・1456・1458教室

発表は、ゼミ8件（社会学科6件、社会福祉学科2件）、社会調査実習Gr1件、個人参加7件（社会学科3件、社会福祉学科4件）の合計16件。研究発表会の参加者は、学生77人、教職員13人、卒業生13人、一般2人、事務局1人の計106人。3つの会場で活発な発表が行われた。



●第一分科会 (1456教室)

「セラピューティックプレイの在り方」 明石留美子ゼミ
 「日本に住むロヒンギャ難民の現状」 明石留美子ゼミ
 「親子分離後の『家族再統合』に向けた支援の展開について」 広瀬正太 (19SWM)

「働き方改革によるメンタルヘルスアプローチの課題 ～ストレスチェック制度実践を通して～」 山田亮介 (19SWM)

「医療機関における人生の最終段階の意思決定支援の実際と課題」 本名雅美 (19SWM)

「外国人の結核医療について」 倉持里江 (18SWM)

●第二分科会 (1458教室)

「都市におけるまちづくりと生涯学習 ～デザイン都市神戸を事例に考える～」 坂口緑ゼミ

「災害時、帰宅困難者を最小限に抑えるためには。～東京都湾岸部を例に～」 浅川達人ゼミ

「フードデザート問題 ～人と食の縁を考える～」 浅川達人ゼミ

「東日本大震災の被害と対策 ～福島のみ～」 浅川達人ゼミ

「日本のファッション誌と中国人読者の関係性について～日中『ViVi』の比較を中心に」 管雨嫣 (19SGM)

●第三分科会 (1451教室)

「社会心理学ゼミ：対人関係に関する質問紙調査」 鬼頭美江ゼミ

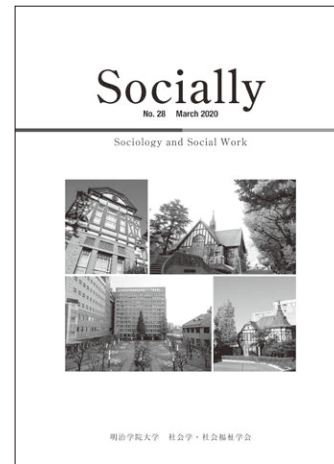
「社会学科生の学習意欲を予測する要因」 社会調査実習Gr
 「『大人』になるとは ～小諸市でのインタビュー調査から～」 柘植あづみゼミ

「友人関係の維持と性格特性・投資モデルとの関係」 鈴木こず衣 (16SG)

「結婚相手に求める条件 ～スピードデーティングを用いた外見評定・社会的地位・自尊心の3つの側面からの検討～」 新田彩華 (16SG)

★Socially28号発行

3月16日(月) 発行部数 1,600部。



2019年度 学生部会活動報告

★講演会① シリーズメディアの達人「メディアの終焉？ Media is dead?」(担当 西岡晴菜・塩原柚紀)

6月7日(金)、白金キャンパス2401教室で開催。参加者は学内外あわせて69名。

講演者は本学社会学部卒業生であり、カエルム株式会社代表取締役社長、雑誌NYLON JAPANの編集長である戸川貴詞氏と、女性向けメディアMERYを立ち上げ、投資家としてもご活躍中の中川綾太郎氏。講演者2人の対談形式で行われ、これからのメディアについて、それぞれのフィールドである紙媒体とインターネット双方の角度から興味深いお話をいただいた。質疑応答の時間には専門的なもののみならず、学生からの就職や将来に関する質問にも丁寧にご回答いただいた。(講演内容はSocially 28号に収録)



★戸塚会議(春)(担当 島香織・河野純夏)

4月23日(火) 横浜校舎420教室にて開催。当日の参加者は社会学科の1年生1名のみであった。

履修相談がメインとなり、入部には至らず残念であった。事前告知が不十分であったので、今後は反省をいかしていきたい。

★夏合宿(担当 塩原柚紀・西岡晴菜・赤木小百合)

8月8日(木)～9日(金) ルネッサ赤沢にて開催。参加者は、2年生 6人、3年生 2人の計8人。

レクやバーベキューを通して交流を深めた。また、ゼミサロンや交流会の進捗状況の共有、来年度の引継ぎや企画について話し合いを持った。

★社会学科ゼミサロン(担当 佐藤楓・山本莉央・大川恭子・西村夏海・楨瑠渚・伊藤小春)

10月8日(火)、10日(木)、11日(金)にゼミ選択の応援企画として2年生を対象に、白金校舎1551、1552、1553、1554、1557教室にて昼休みに開催。参加者は180人。

2年生が担当する初めての企画ということもあり、昨年の反省を踏まえ、担当人数を増やした。当日はゼミ選択に役立つという声をいただいた。一方、企画運営面では、アンケート回収において例年とは異なる方法を試験的に導入したところ問題が起きるなど、反省も多くあった。

★《卒業生部会との合同企画》社会福祉学科卒業生との交流会(担当 引地理彩)

11月9日(土)に白金キャンパス2102教室で開催。参加者は41名。

さまざまな福祉現場で活躍する15人の社会福祉学科卒業生をお迎えし、在学生との交流や情報交換の場となった。在学生は1年生から4年生までの参加があった。

★戸塚会議(秋)(担当 赤木小百合・大川恭子)

11月6日(水) 戸塚校舎420教室にて開催。参加人数は1年生3名(社会学科生)。

参加者は学内学会の活動について真剣に話を聞いてくれた。しかし、参加人数が非常に少なく、今後は企画などを通してアピールしていくことが必要。

★講演会② シリーズメディアの達人「学生たちが、今、学校以外でやるべきこと」(担当 塩原柚紀)

12月17日(火)、白金キャンパス2301教室にて開催。参加者は学内外あわせて121名。

講演者は本学文学部芸術学科非常勤講師であり、放送作家としてご活躍の鈴木おさむ先生。講演会は、鈴木先生のご提案により二部構成で行われ、第一部は、事前募集した学生からの質問に沿う形で鈴木先生の今までの人生に関して、第二部は社会学科の2名の学生を交えた対談形式で今後のメディアに関して議論を深めた。学生の興味、関心に沿った大変充実した内容の講演会であった。



卒業生部会活動報告

★横須賀基督教社会会館見学会～卒業生の活躍の足跡を訪ねて～

9月7日(土)に参加者60名で開催。松原学長、和気教授、元副学長の河合名誉教授、大学院生、学生、故濱野先生の奥様、濱野ゼミ卒業生、竹越明治学院同窓会会長、その他同窓生諸氏が各地からご参加くださり、盛会であった。

まず、社会学部社会福祉学科卒業1期生、濱野ゼミ1期生で、且つ1967年に社会会館に就職され、2007年に館長に就任された岸川洋治氏より、「濱野一郎先生と横須賀基督教社会会館の働きについて」と題して、会館の概要、地域貢献の内容、濱野先生のこの会館にかける思いなどが語られた。

次に、社会福祉学科の教鞭をとられ、更に理事長に就任された、社会館現会長の阿部志郎先生より、「私と明治学院～引き繋いで貫きたい明学の精神～」というテーマでご講演いただいた。戦時下の基督教学校の様子や、当時のエピソードなどを交えての貴重なお話であった。参加者一同、深く心に染み入る素晴らしいひとときを持つことができた。



★《学生部会との合同企画》社会福祉学科卒業生との交流会
 >学生部会活動報告に記載

異動・消息

2020年3月 社会福祉学科教員の松原康雄先生が退任。
 2020年3月 社会福祉学科教員の岡本多喜子先生が退任。
 2020年3月 社会学科教員の浅川達人先生が退任。
 2020年3月 社会学科教員の安井大輔先生が退任。
 2020年4月 社会福祉学科に金圓景先生が着任。
 2020年4月 社会学科に松波康男先生が着任。

学内学会 新体制

会長	大瀧 敦子 (社会学部長・社会福祉学科教授)
副会長(主任)	岡 伸一(社会福祉学科教授)
副会長	加藤 秀一 (研究所所長・社会学科教授)
編集担当	澤野 雅樹(社会学科教授)
企画担当	金子 充(社会福祉学科教授)
会計担当	松波 康男(社会学科准教授)
卒業生部会委員長	麓 良久(1971年卒業)
学生部会委員長	石川 真衣(社会学科3年)

2020年度 学内学会活動予定

4月1日(月) 【学生部会】新入生ガイダンスで広報(白金校舎)中止
 5月 第1回合同役員会議 中止

5月23日(土) 【学生部会】戸塚会議 オンライン開催
 6月30日(火) 会報29号発行
 7月上旬 第30回総会(書面決議)
 ※総会後の特別講演会と懇親会は中止
 10月上旬 【学生部会】社会学科ゼミサロン
 10月中旬 【学生部会】戸塚会議
 12月下旬 社会学部研究発表会
 2月下旬 第2回合同役員会議
 3月中旬 Socially29号発行
 日程未定 【学生部会】上映会
 日程未定 【学生部会】講演会
 日程未定 【学生部会】社会学科卒業生と在校生の交流会
 日程未定 【卒業生部会】卒業生の活躍の足跡を訪ねる見学会
 日程未定 【卒業生部会】講演会
 日程未定 【卒業生部会】社会福祉学科卒業生と在校生の交流会

編集後記

会報29号をお届けします。今年の会報の冒頭には、今春に社会福祉学科教授を退任された松原康雄先生と岡本多喜子先生による寄稿文を掲載しました。昨年度に学生部会と卒業生部会が行った活動の報告も掲載しています。会報発行にあたり、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

今年度は新型コロナウイルスの影響により残念ながら中止を余儀なくされた企画があります。学生部会では、このような状況下でも実現可能な企画を話し合っており、皆様の温かいご支援とご協力のほどよろしく願いいたします。

(学生部会編集担当 社会学科3年 石岡里佳子)

連絡先：〒108-8636 港区白金台1-2-37
 明治学院大学社会学部附属研究所内
 明治学院大学社会学・社会福祉学会
 E-mail shakaimg@soc.meijigakuin.ac.jp
 会費振込先：郵便振込 00170-5-96903
 明治学院大学社会学・社会福祉学会

※住所変更の際はハガキ又はメールでご連絡下さい。